



ふれあい

ふれあい

■シルバーだより■

第25号
 1997年9月1日
 発行

社団法人
 豊中市シルバー人材センター
 豊中市中桜塚3丁目3番1号
 TEL 856-1777

平成9年度通常総会盛況裡に終わる

5月27日午後2時から平成9年度通常総会が、市立アクア文化ホールにおいて開催。第一部は、長谷川一義氏による津軽三味線演奏。第二部は、正会員阪口充男氏を議長に選出。第一号議案から第五号議案まで審議され、全て原案どおり可決承認された。



当日会員数 千三百六十三名 (合計 千三十八名)	総会出席者 三百八十七名 委任状提出者 六百五十一名	監事 岡本宗五男	監事 古市恒義	理事 出嶋慎一	理事 川手洋三	理事 徳永美恵子	理事 藤本哲夫	理事 藤井健二	理事 阿南和男	理事 宇都宮義典	理事 吉川武二郎	理事 上田善治	理事 藤田泰通	理事 林田照野	理事 織田晋一	理事 小川政市	理事 山路茂雄	常務理事 岡本利夫	副理事長 水上英三郎	理事長 宮崎英三郎
	《役員紹介》																			

総会ごあいさつ



理事長
宮崎 英三郎

本日は、平成九年度社団法人豊中市シルバー人材センターの通常総会を開催いたしましたところ、市の齋藤助役さんをはじめ、評議員さんには、公私ご多忙のところご出席頂きまして、心から御礼申し上げます。



豊中市長
林 實

豊中市シルバー人材センターの平成九年度通常総会が盛大に開催されましたことを、心からお慶び

また、会員の皆様には、大変お忙しい中にもかかわらず、このようにたくさんご参加くださいます。まことにありがとうございます。

通常総会を開くにあたり、ひとこと、ご挨拶申し上げます。

最近、新聞紙上では、景気回復の兆しが現われているとか、また、消費税アップの影響で景気は低迷しているとかの報道がされ、景気の状態は不透明であり、まだまだ厳しい状況でございます。

しかしながら、当センターの平成八年度の事業実績を見てみますと、会員数が一千二百九十人、前年度より五十五人の増、また契約金額は三億四千五百万円で前年度より三千百七十八万円の増となり

申し上げます。

平素皆様方には、市政の各般にわたりまして、格別のご支援・ご協力を賜わり、心から厚くお礼申し上げます。

貴センターは、高齢者の就業と生きがいの場として設立されて以来、順調に発展をされ、着実な成果を上げてこられました。

これもひとえに宮崎理事長さんをはじめ、歴代の役員の方々並びに会員の皆様方のためまぬご努力の賜と、深く敬意を表するところであります。

ました。

このような景気の不透明な中で、増加できましたのは会員各位、市当局そして発注者の皆様のお陰だと感謝致しているものでございます。

また昨年は、「高齢者の雇用の安定等に関する法律」が改正され十月から実施されたが、この主旨は高齢者が全国どこでも、就業機会の提供を受けることができるよう、より効率的に、かつより広い地域においてシルバー人材センター事業を展開できるよう改正されたのでございます。

この改正は、社団法人全国シルバー人材センター協会内に設置された「事業発展、拡充のための検討委員会報告」に基づき、会員の

今日、急速に進展する高齢社会の中で、皆様方が豊かな経験と能力を生かされ、共に助け合いながら活力ある地域社会づくりにご参加をいただき、高齢者の福祉増進に寄与されておりますことは誠に意義深いものであります。

本市を取り巻く財政環境は本年も引き続き大変厳しい状況にありますが、二十一世紀の豊中のあるべきまちの姿をしっかりと見据えながら、活力と魅力にあふれた、そして災害に強いまちづくりを目指して参りたいと存じます。

皆様方にもお願いいたしました、署名活動により実現したものでございまして、二千年初頭には、百万人の会員と、多様な就業機会の確保、会員による自主的運営の推進などを目指すものでございます。当センターにつきましても、法改正による連合の構成団体となり、今後の就業開拓推進事業、技能開発・講習事業、安全就業推進事業等の展開に成果がでるものと考えております。

本日の総会には、平成九年度の事業計画等重要な議案を提出いたしておりますので、内容のあるご審議をお願いしたいと思います。最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念致しまして、私の挨拶と致します。

とりわけ、当市における六十五歳以上の高齢比率が12%台に移行している状況の中で、今後高齢者対策をはじめとする福祉・医療の充実や快適なまちづくりのために全力で取り組んで参りたいと存じますので、皆様方には、引き続き格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、豊中市シルバー人材センターの今後益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。そして、心からお慶び申し上げます。

事務局だよ

シルバー人材センター

フェスティバル'97開催

大阪府内シルバー人材センターの年に一度のお祭りです。府民の方にシルバー人材センター事業について理解と認識を深めていただくことにより、高齢者により多くの就業機会を確保することを目的にシルバー人材センターフェスティバル'97を開催しますので、隣近所のお友達をお誘いあわせのうえ、ご来場ください。

実施日 平成九年十月十六日(木)

十二時から十六時三十分

十七日(金)

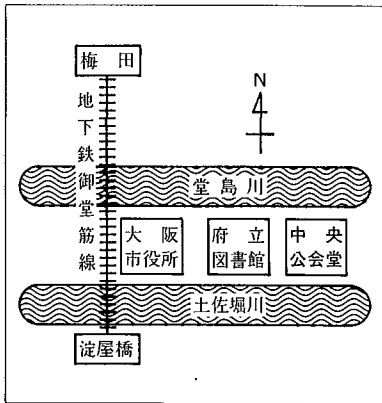
九時から十六時三十分

場所 大阪市中央公会堂

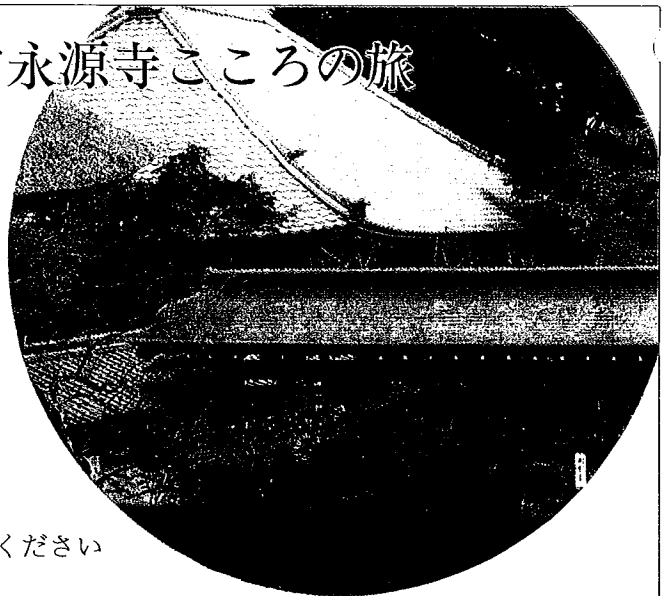
(北区中之島一・二・七)

内容

- ・各種実演コーナー
- ・経験交流会
- ・アトラクション他



歴史の面影を残す永源寺ころの旅



実施日 11月21日(金)、22日(土)

行き先 永源寺 (湖東方面)
紅葉を愛でる旅

費用 @6,500円 (会員負担)

募集人員 21日(金) 80名、22日(土) 40名

受付 10月13日(月) 午前9時電話受付開始
・電話受付時に希望曜日を指定してください
・先着順

旅行行程

名神
 豊中市役所前 ⇒⇒⇒⇒⇒ 八日市 I C ⇒⇒⇒⇒⇒ 永源寺 ⇒⇒⇒⇒⇒ あゆ家の郷
 08:00出発 09:40~10:40 11:40~12:10

琵琶湖大橋 名神
 千松 ⇒⇒⇒⇒⇒ 日吉大社 ⇒⇒⇒⇒⇒ 京都東 I C ⇒⇒⇒⇒⇒ 豊中市役所前
 12:40~13:50 14:20~15:20 17:30頃到着



昼食場所 千松 (舟盛り)
滋賀県草津市新浜町南河崎297-1
0775-65-8800



豪華で新鮮な丹後日本海の海の幸を楽しんでください

楽しかったバスツアー (3月13・14日) 足立美術館と皆生温泉の旅

楽しい旅の出発です

3月13日(木)7時半くらいでしたが、市庁舎前にはもう30〜40人もの会員の方々が待つておられました。会員45名、事務局5名、1号車と2号車に分乗し、総勢95名のご一行様の出発となりました。定刻8時より、15分遅れての出発です。

第 1 日

天気は、まずまずの薄曇り。池田I.C.から中国縦貫に入ると、見慣れた西宮北I.C.や吉川I.C.周辺の景色を眺めながら、加西S.A.での休憩をはさみ、バスは出発の遅れを取り返すべく、ややスピードを上げて快適に、落合JCTを経て、一路最初の目的地蒜山高原に向かいました。そこではジンギスカンなべの昼食が待っているのです。蒜山高原に近付くにつれ山肌に雪を残した山々が見えて来ました。やはり山陰地方は寒いのだという実感も沸いて来て、やがて、蒜山高原センターについてみると、目の前一杯に伯耆不二ともいわれる大山

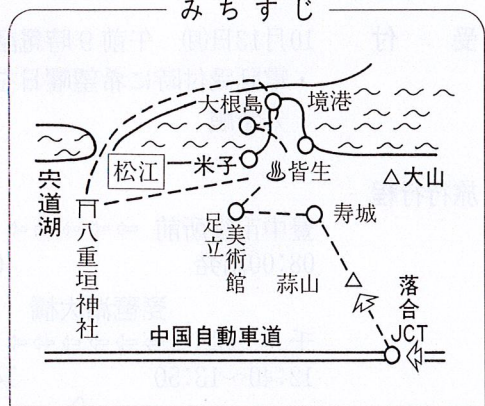
がありました。ジンギスカン料理もたっぷり、おいしく戴きました。大山をバックに記念撮影をするのがあちらこちらで見られました。



ジンギスカン鍋で元気モリモリ
さあ参りましょう

その後、お菓子の「寿城」を見学しました。椀餅を始め、まことにたくさん種類の饅頭がありました。いろいろと試食している内に、しこたま食べてしまったようです。この辺りには、上淀廃寺跡などたくさん古の遺跡があり、興味が尽きないのですが、「足立美術館」に向かいました。「ガイド」から知らされていた以上に素晴らしい日本庭園、枯山水のほか足立全康氏の収集品の数々に圧倒され

みちすじ

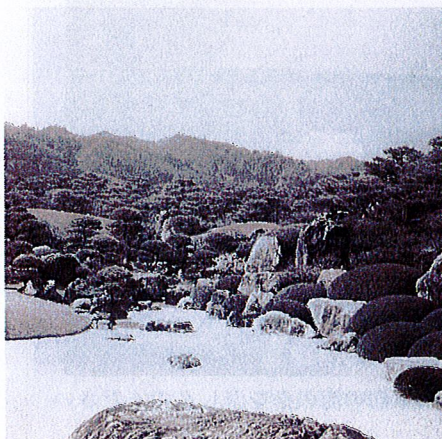


ました。横山大観、竹内栖鳳、上村松園、伊東深水、平山郁夫など曹々たる画伯の絵に接することができたことは貴重でした。

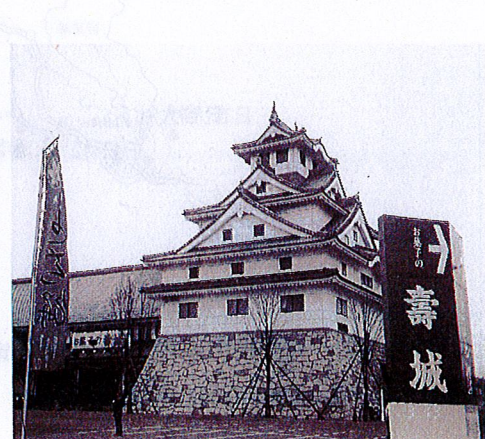
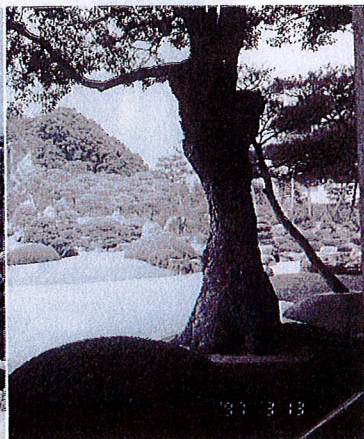
「あす、一番に見学、訪問するのは「八重垣神社」という縁結びの大基の社です。なぜなら、この場所こそが素佐鳴尊と櫛稲田姫命が新居を構えられた処といわれており、

「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣造る その 八重垣を」と素佐鳴尊が詠まれたところです。」とガイドさんから説明を受けている内に、予定通り4時半には「皆生グランドホテル天水」に到着。6時、夕食までに、皆早速、温泉につかりに参りました。

5年前に改装されたというだけあって、誠に新装そのもの。大広間をつなぐ廊下も、全面ガラスで窓ごしに水に浮かぶ(ティーラウ



足立美術館、春の枯山水絵画の美

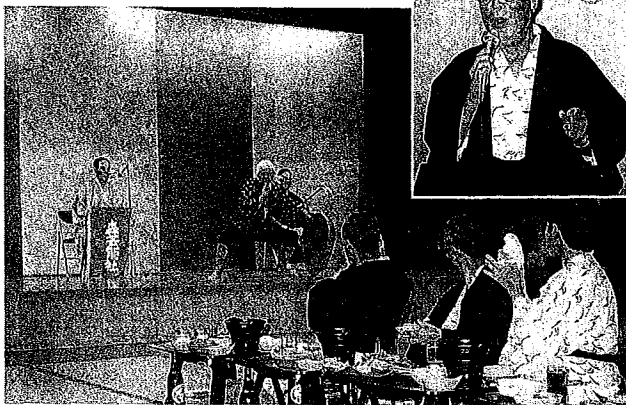


お菓子の寿城は山陰の社名所

理事長！名調子



ンジ」が見え、その向こうには波打つ日本海が望まれると言った具合で、なかなかの做(しつらえ)でした。風呂場も申し分無し。一旦、部屋に戻って、頃合をみて夕食の会場に行きました。いよいよ皆さん、おまぢかねの大(宴会)の時間です。



地元安来節の名演技、食事も忘れて…

蒸し(カニ)料理がメインで、その他えびの天麩羅、湯豆腐、ミニ会席という感じで豊富な小鉢類が出て来ました。やがて、地元の「安来節」の出し物やアトラクションに引き続き、会員の皆さんによる、カラオケ大会が始まりました。全く、女人はだして、ピツクリしました。司会も進行もなかなかのものでした。お開きの後、

第 2 日

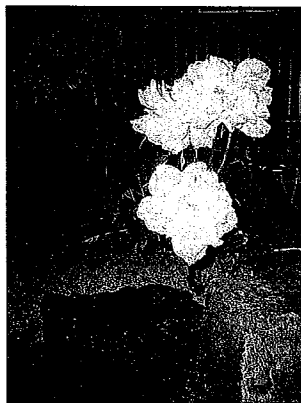
自室に帰った私達は正直なもので、昼間の疲れと満足感のせい、9時には軒や寝息が聞こえてきました。

翌14日(金)、朝6時には目を覚まし、早速湯につかりにいきました。日本海を目の前にする入湯は格別です。朝ご飯が、これまた、豪華なものでした。朝から宴会がはじまるのではないかと、錯覚してしまいました。「熱燗二本・・・」

バスは昨日来たルートをややひき返すような具合に米子市内、安来を通って松江市の南に位置する、二日目第一の目的地、八重垣神社に到着しました。近くには、39個の銅鐸の発見された(加茂岩倉遺跡)や358本の銅剣の発見された(荒神谷遺跡)もあり古代史の大地そのものなのです。境内の奥は鬱蒼とした古木が生い茂り、すかして眺めると、スサノオの尊とクシナダ姫の尊の太古を思わすにはいられませんでした。境内の片隅には立派な一物をか



ざった祠が目につきました。記念撮影をされている方もおられました。霊験あらたかならんことを。小雨が降ってきました。次は、漁港として栄えた(境港)の海産物センターでの買い物を終え、大根島・由志園に向いました。由志園につくと、手際良く、きれいな緋毛氈敷きの床木に腰を下ろし、大根島・由志園の説明を聞きまし。その間にすっかり、昼食の用意がととのえられるという具合です。



大根島由志園の大ボタン

まことに、その段取りのよさには感嘆しました。食事豪華で昼食とは思えないくらいでしたが、由志園の庭の(ぼたん)の花の美しいこと。これは一見の価値がありました。何枚か写真を撮りましたが、うまく撮れませんでした。目も腹も堪能さしていただいて、再びバスに分乗して、米子の方へ戻りました。後は一路豊中へまっしぐら。帰りのバスの中は静かなもので、皆さん旅の想い出にひたって帰りたいと思われていたようです。





旅先で受けた

小さな親切

大きな感動



第四班
樋上 俊次

私は今年誕生日を迎えると七十八才、妻は七十四才という老齢になり、こちらで一っ外国旅行でもして楽しい思い出でも作ろうということになり、おこがましくも、夫婦二人で行く4泊6日のハワイ旅行を計画したのである。

旅そのものは二つ三つ失敗もあったが、楽しさと、良さ思い出を残すことが出来た外国旅行であった。

私は今回の旅先である、ホノルルの町中でうら若い一人の日本女性から、心暖まる扱いを受けたのである。それは最初の二日間をマウイ島で過ごし、三日目の朝ホノルルに引き返し夕方近くまで市内観光をしてホテルに着いたのである。その日の夕食は各人別々に食

べることになったのであるが、私達二人は現地の食事の量の多いのに辟易しており、何処か軽い食事の出来る店はないかと妻と連れ立ってホテルを出たのである。しかしその付近は大きなビルとか何百台という車が止められる様な駐車場の建物林立する町で、食事をしたたり、軽い食事を売っている店は見当たらず、困り果てて居ると丁度そこを二十才前後の日本人らしい娘さんが通りかかったので藁をも掴む思いで、軽食など出来る店か、食べ物を売っている店はないか尋ねたところ、暫らく考えて、「確かではないがそこを少し行っただころにあつた様に思います」といって教えてくれたのでその方向に行つたのであるが、なかなか見当たらず教えてもらった場所から二百メートル以上も歩いた頃、後ろの方から「もし一寸一寸」といいながら息せき切つて先程の娘さんが走つて来て「先程は忘れてました、四百メートルか五百メートル程行つた所にダイエーがありますが行かれますか」といって教えに引き返してくれたのであつた、私は「はあーはあー」いいながら引き返してくれた娘さんの姿を見てその善意に思わず涙ぐみそうになつたのである。

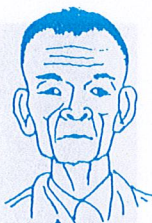
私達は、娘さんの案内でダイエーに行き、お寿司の盛合わせとかお握り、お茶といった軽い食事などを買い込みホテルに帰つたのである。

私は英語とか英文といったものは全くの文盲に等しく、旅は楽しかったのであるが常に言葉の不安が付きまとう外国で受けた、この善意は私の心を強く打つたのである。

健康で気ままに

生きれる喜び

(その1)



第十三班
原田 天豊

毎朝、目が覚めてもすぐに起き上がる事が出来ない、外はまだ暗いそれに寒い、もうすこし寝よう横着を決め込む。次に目がさめると6時半になっていて窓から薄明かりが差し込んで居る。台所でカタコトと家内が炊事の支度をして居る。

若い時にはガバと起き上がったものだが、今は、そのようには行かない。目をつぶって体を左右にゆすりながら静かに布団の上上半身を起こして、目まい、や、ふらつきが無いか確かめる。何事も無い事を確認したのでベッドより離れて衣類を身に着ける。毎朝の定期的な仕事となつてしまった。朝飯は家内も息子夫婦孫五名はパ

ン食で簡単だが、私はそうは行かない。三食共米飯を食べる味噌汁・野菜の煮物・魚等が無いと体が持たない。パン食を食べるとムカツキがひどく、その苦しみは大変なものです。最近肉を2〜3切れ食べれるように成りましたが、時々胃が躍り出しコブが出来ます。

夕食は私の一番楽しい一時です。と言うのは一家六名団らんの時間なのです。(朝は老夫婦の台所での食事)と言つても息子は帰りが遅く夕飯に間に合うことは月に何日かしか有りません。オジイチャング飯ですと、呼びに来る孫の声を聞くと、生きて居て良かったと毎回感謝しております。食事をしながらその日の出来事、孫等の語らい、時には私の戦争体験の話し等、話題はつきません。胃が手術後十六年間で健康で生き永らえておられるのは、家族全員で私の健康を気遣ってくれるからです。私の体に合う食べ物を調理してくれる家内の心使いが無ければ生きて居ることは出来なかつたと感謝しております。息子一家と同居し始めて二年に成りますが、嫁も家内の言う通りに私の好みに合わせて皆と別に魚料理や煮物等を作ってくれます。

暮れから正月に掛けて三ヶ日仕事を休み一族が集まり賑やかに過ごしましたが、体調を崩し未だに戻りません。鼻風邪を引き、朝はマスクをしております。指先が痛

い位寒い日も有りカイロを入れて仕事に出ております。山荘も寒さがひどく鶏の飲み水が凍り昼過ぎに成らないと解けません。無人の時困って居ることでしょう。卵は産みません。

今年も健康でシルバーの仕事と百姓を両立させシルバー天国に向って前進有るのみです。

交通道徳を守るのは

むつかしいものか…

(その2)

世の中には色々な規則がたくさん有り、人々は皆それを守って生活しております。一步外へ出るとその規則が付いて来る、他人に迷惑をかけない為には交通道徳を守らなければ成らない、昔は、人は右側通行ときまっていたが、いつからか左側通行と変わったが、右側を歩いて居る人は何パーセント居るでしょうか、通勤途中、千里ニュータウンの歩道橋を通りますが、右側通行して居る人は少ない99パーセントの人は左側を歩いて居る、脇道から出てきて左右も見ないで道を横切る、前を歩いて居る急に停まる人、スーパの前にはおびただしい自転車が雑然と置かれています。一部のスーパーでは整理員が居て整然と並べておりますが、歩道がふさがり歩行者が難儀しているのに、知らぬ顔している店が多い。また、お客も自

転車を出すとき後ろも見ずバックして後ろに居る人に当てる。一部の人の中には買物物をせず自転車のマフラーを置いてゆく人もおる。単車のマフラーをはづして三人乗りでジグザグ運転で走り去る若者、自転車の二人乗り、荷台がないので後ろに立ち乗りの学生、私は一七六号線の歩道を自転車で歩行者に気遣いながら走りますが、年輩のおばさんから(歩道を自転車で走らないで)と数回注意を受けました。

駅前よりシルバースタターまで行くのに一七六号線を走らないと行けないし車道は道の両側にギツシリと駐車していて車道を走ると後ろから来る車にハンドルを引つかけられそうで恐ろしい。歩行者に注意しながら歩道を走るしかない。毎週中国高速道路一四〇kmを往復しておりますが、運転マナーの悪い人が居て冷や汗をかくことが有ります。2車線の真ん中を走る車、ウインカー無しで車線変更、一五〇km以上で走り去る車、ジグザグ運転、ゆっくり走るの追いつて追い越しさせない。走行車線に越し車線に出るとスピードを上げて追い越しさせない。走行車線に戻ると又ゆっくり走る、何回も線り返す、5分置き位にブレーキを踏む車、追い越しと同じに走行車線に入ってくる。こちらは急ブレーキで避ける。混んでいる時に車間距離2メートル位で追い掛けて来る。ときにはライトを点け警笛

を鳴らしながら(どけどけ)と威嚇する車、大型トラックに二二〇km位で追い越される時、車が風圧でグラグラと揺れハンドルを取られる。来たなアアと思うとき路肩寄りにより難を避ける。私は一〇〇以下で走るように心がけて居ます。(ガソリン代も安く付きます)楽しいはずのドライブがちよつとしたことで気分的に落ち込む、商店街の中心に1ヶ所だけ歩道半分位出ているカンバンに昨年自転車のハンドルが当たったので、取り除いて欲しいと話しに行ったが取り合ってもらえなかった。まだそのままで。人の迷惑は何年でも構わない。他人が困るのを見ると楽しいと言う心の持ち主も居る世の中だが、人並みの常識だけは持ち合わせて欲しいものです。

奈良町遊歩



第五班

藤本 哲夫

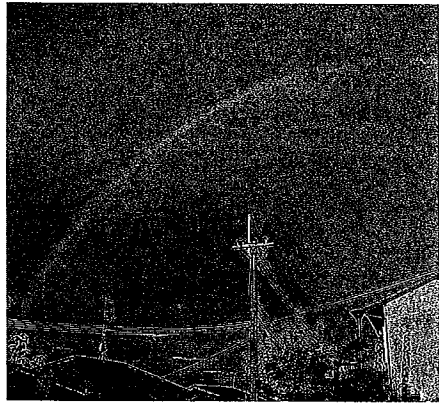
今年の五月は例年になく、天候が不順であった。花冷えの時期が終っても、気温の低い日が幾日も

続いたり、梅雨を思はせる様な雨の日も多かった。そんな天気の後く五月末の或日、奈良町を訪ねた。「ならまち」江戸時代末頃からの古い家並が残り、落ち着いた風情を漂わせ、訪れた人々になつかしさを感じさせてくれる。そしてそこには、人々の暮しの息吹きが感じられる。

奈良町は、奈良市の行政地名には現れない。路地のような道が縦横に走り、奈良格子と呼ばれる格子構えや、むしこ窓、うだちを設けた古い家並が続く。お寺や佛とはまた違う奈良があるように思う。さて奈良町の入口には、元林院町、下御門町など、町名にも風情がある。また小寺院も多い、遊歩の目的は、古い家並を縫ってそれら小寺院を巡ることである。

奈良町散策マップによれば、旧元興寺の寺域内に発達した町であるらしい。先づ元興寺極楽坊を訪ねた。もと元興寺の僧坊で西国薬師寺第五番霊場とある。丸瓦の屋根が美しい。

それから石畳の続く路地を道標をたよりに何回か曲ると十輪院がある。春日の山が目印になるので方向を間違えることはない。十輪院はもと元興寺の一院とされ優美な本堂は、貴族の邸宅を思はせる。次に迷路のような小路を進むと、ならまち格子の家がある。ウナギの寝床風の奥行のある建物で、箱階段などに昔の暮しが偲ばれる。



家は綺麗に再現されて居て内部は見学する事が出来る。最後に庚申講のメツカ庚申堂に歩を運ぶ。堂の屋根には、見ザル、聞かザル、言わザル、の可愛いお猿さんが：奈良町の伝説によれば、人々はいつも家の軒先に猿を吊して、悪病や災難が近寄らないようにおまじないをしているとある。時計の針も午后三時を過ぎたので、家毎に吊るされたお猿さんに見送られながら帰宅の途についた。町のそのる歩きも小さな旅と思ふ。

万歩計は一万五千余歩を刻み、静かな一日であった。

昼灯す奈良町寧しねむの花
奈良町の辻の祠に西日さす
奈良町の寺院巡りや風五月
紫陽花やひる深閑と路地の奥
路地の風入れて旧家の夏座敷

経験の宝を

地域へ出そう

第三班 安家 周子

7月に豊中市「合唱の夕」が開催され、私も「あけぼの プチトマト」合唱団から出場しました。ところが約40団体のグループの中のシルバー合唱団(72人)からずばらしい歌声が流れてきました。平均年齢72才、男性のソロもあり中には足の不自由な方も元気に歌っておられました。シルバーセンターでは専門職を身につけ経済活動をされている人、趣味のグループで日々楽しく交友を深めている方もあります。高齢になると1人ぼっちで閉じこもり勝ちですが色々なグループ活動へ参加する事も奨励したいものです。私が主宰する女性の会では、結婚相談のボランティアを40余年してきました。相談委員のメンバーに、7、80才代が3人います。最近独身志考が多く少子化を招いています。そこで合同コンパ(集団見合い)を開催しました所、75名の参加者で、3時間程、唯々楽しく語り合い交流しました。その後夫々の希望のペアーで交際へ展開しているペアーもあります。

地域社会に喜んで頂ける事を取りあげてゆきたいと思っています。

想いのたけをふみに託して...

近 詠

第四班 村井 實代子

夕風の添ふ手を通しゆかた着る
丈夫なる泣き声たてて吹流し
老いかなし若き思出ところてん
母の日の母の眼鏡のゆるみがち
鮎の香や膳の上にも初夏来る
一隅やくらき香りや衣更

俳 句

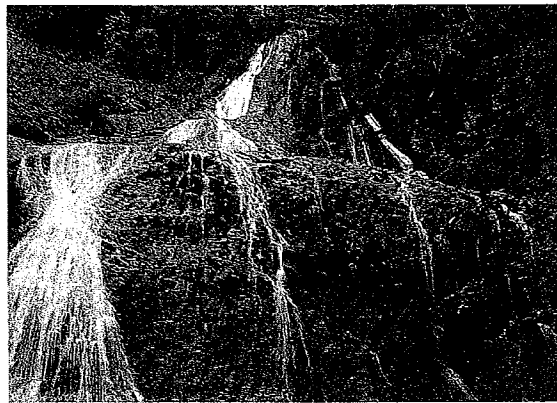
第九班 本多 兼重

アカシアの花や異国に遠き恋
恋多き宇野千代は亡く桜散る
野すみれの花の記憶に隣の娘
恋猫の一途の羨しとも羨し
赤とんぼ我を連れゆけ故郷へ
秋の蟬余生思わす声弱き
山柿の鈴生り赤し秋没日
落ち葉寄る庭の片隅石路の花
球根の発芽愛しみ霜囲

兄の名になでさすりたるふと我に
生きて逢えればこの上もなし
(沖縄にて)

封を切り名あり長き道なり
(沖縄より便りあり)

赤子見て手足動かし起き上がる
孫は如何にと電話して聞く
兄二人国に捧げし父母の身を
今親になりて悲しみいかに



刃物研ぎ

シルバー人材センターの独自事業でもある刃物研ぎ。初めは中校塚在住、浦欣也さん(75)お一人の作業だったのが平成7年12月から蛍池西町在住、東中高一さん(67)を新メンバーに加え、よりパワーアップし、今では3ヶ月に一度の作業に約100件近く、本数にして200本以上の数をこなすほど。

現在毎回同じ発注者の御名前も見かける様になり、当センタ



私は「ふれあい」帽子



「も喜んでおります。地味な作業ですが、これからも2人で協力しながら楽しく仕事に取り組んでいきます。」



ボランティア活動

平成九年三月二十八日(金)豊中市立原田老人福祉センターにおいて園芸班九名による植木剪定作業のボランティア活動がありました。園芸班の皆さんのハサミさばきも鮮やかにボサボサの植木がいつの間にか春風が似合う植込に変身していました。



短歌五首

第四班 江藤 翠

少し風邪気味なれど柚子浮かせ
たっぷりの湯に冬至更け行く

「この方がおしゃれよ」とそつと
娘は手を延べ吾のマフラー直す

俯いて歩くと指摘されし時
顔も暗きかとひとり戒しむ

母の日に神戸の海辺へピクニック
楽しき一日呉れし娘ら

石塔は泰然自若もの言わず
生くる我等を慈悲深く見る (墓参)

俳句五句

第四班 江藤 翠

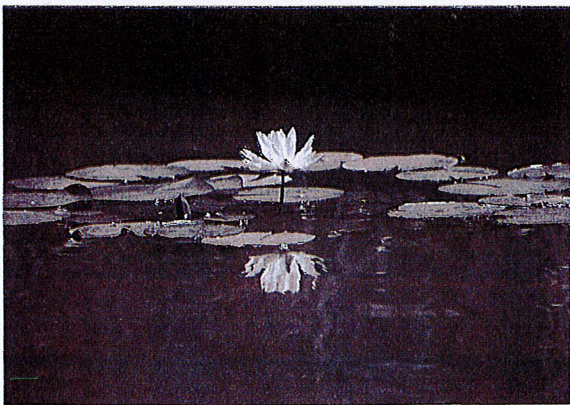
暖冬と言えど厚着に老いを知る

雨戸繰る目に飛び込みし雪景色

道果てて雪柳咲く崖に来し

母と子のくぐる校門花吹雪

散る桜のひとひらなりや還らざる
(叔母逝く)



同好会だより

ハイキング同好会

長岡京の社寺めぐり

山路 政市

六月十四日、良いお天気恵まれ、暑い中社寺めぐりハイキングに参加する。

阪急十三駅で集合し参加者三十二名が急行に乗る。長岡天神駅で下車、目的の長岡天満宮に今日の無事を祈って、菅原道真が祀られていて学問の神様として多くの参詣者でにぎわう。次は寂照院、嵯峨天皇のころ道雄和尚によって草創された寂照院は一時、支院十一坊を擁し山城地方に君臨したと聞く。走田神社から竹林の清涼の間をぬって長法寺へ。暑さもピークに達しているが全員元気である。西山の中腹に営まれた天台宗延暦寺派の寺院で十一面観音を本尊としている。洛西観音霊場第九番、天台宗清巖山、長法寺である。子守勝手神社から近路を通って光明寺へ。

二十年の歳月をかけて宝暦三年(一七五三)に再建されたものである。中央正面には宗祖円光大師御自作の「張子の御影」を御本尊としておまつりしている。

その他、阿弥陀堂、御本願、納骨堂、宝物収蔵庫、釈迦堂等がある。



る。当本山は建久九年(一一九八)にかの源平の戦いで有名な熊谷蓮生法師によって創立される。あく安貞二年正月二十日の夜、地ふるいて上人の石棺より数条の光明が放たれ南西方面にある粟生野を照らすという不思議なことがあったので、寺の裏山に御芳骨を納めて廟堂を建てた。この時の光明の奇瑞にちなんで、仁寺三年(一二四二)正月九日四条天皇から「光明寺」の寺額を賜ったので、念三味院の寺号はこれ以後、光明寺と改められる。当山は「浄土一宗の御本廟」と定められる。町の中を通って「乙訓寺」へ、本堂は改築

ハイキング、T・シルバートラベル、書道

中であつた。赤根神社で拍手を打って参拝し、これで八ヶ所の社寺をお詣りする。

山歩きするものにとってハイキング中の汗は良い汗であり、素晴らしい事である。

T・シルバートラベル同好会

発足一周年に思う

山田 英明

平成八年の早春の作業中のお茶の時間陽だまりに腰をおろしての会話。

「今度の人材センターの一泊旅行は北陸の輪島と言うだけに、なかなかの人氣が良く大勢の申込があり、その結果人数に制限があるためキャンセル待ちの会員さんが多くあるとか」との事、「そんなに旅行に興味をもっている会員さんが多ければ旅行同好会を作ったらどうやらか」と上田(後の会長)さんと話をしたのが同好会発足の起源であります。

いざ結成するとなると何から手をつけていいのやら全くわからず、気は焦るけど作業は捗らず揚げ句の果は隣接の箕面市の人材センターを訪問して種々お話を聞き資料を頂戴して参考にしました。又当人材センターの事務局の職員さん

の手を煩わしてはいけな言われていながらどうしても助けてもらはなければならぬ問題も出て来ました。そんな時事務所よりお借りした参考資料を基に「あーでもないこーでもない」と部分的に当同好会にあわすべく削除と挿入を繰り返して出来上がったのが現在の会則であります。

その会則に基づいて昨年七月一日に設立総会を開き会名をT・シルバートラベル会と命名し上田会長の指導のもと各地域担当役員(郵便番号560が三名561が一名565が二名)の協力とメンバー各位のご理解を頂き今日ここに一周年を迎える事となりました事は非常に喜ばしい事です。発足当初三十五名でありましたメンバー数は現在六十五名になりました。この一年を振り返りますと日帰りバス旅行として昨年九月に天の橋立へ四十名が参加し、今年四月七、八日の一泊二日の旅行には二十名の参加がありました。いづれも往復の車中ではカラオケあり抒情歌の大合唱ありで賑やかな一時を過ごしホテルに着けば大浴場で疲れを癒し宴会場では山海の珍味の料理で食べ切れない程の量に舌鼓を打ちながら時間がたつにつれ歌あり踊りありのどんちゃんさわぎと楽しい旅行となりました。発足当



初の心配はどこえやら!!。又一方では怪我、病氣、交通安全と気を配るとき一時も気を弛める事の出来ない一面もある事は事実であります。初心の気持ちを忘れずに今後も頑張ります。発足一周年の記念事業としてメンバー全員にテレホンカードを贈呈出来るまでにT・シルバートラベル会が成長した事は喜ばしいことであります。これも事務所の陰の援助と役員一同嬉しく感謝致して折ります。本年度の一泊旅行は九月に瀬戸内海の小豆島を予定して居ります。今回はどれだけの参加者があるだろうと今からあれこれと少しでも今迄以上の楽しい旅行が出来るように策

昔から「書は人柄を現わす」といって文字を見ればその人がどんな人物であるかが判るといわれております。
 「弘法筆を選ばず」という諺がありますが書の道はどんな筆でもよいと思っている人があがるがそれは誤りです。
 「還暦の由来」など、その解釈は二時間の稽古の合間にそういった日常茶飯事的な書道に困んだ知識の話も又楽しいものです。
 次日から般若心経、俳句などへと新しい分野に挑戦する書道の醍醐味に夢がふくらんでいきます。足の散歩は緑地公園へ
 手の散歩は書道同好会へ
 軽い気持ちでご参加下さい。

書道同好会

堤 喜久男

を練っているところです。
 T・シルバートラベル会のメンバーの公募はしませんのでどなたかお知り合いの地域担当役員に申し込んで下さい。旅行内容が決定すれば、T・シルバートラベル会のメンバーには郵便でお知らせ致します。奮って参加を希望致します。

連絡先

上田会長 855-0167
 山田副会長 868-11778
 滝上会計 853-4086

道隨時泰
 慶與泉流

第五班 九代宮睦榮院書 多度津亮介 圖

嘉辰令月歡無極
 萬歲千秋樂未央
 長生殿裏春秋富
 不老門前日月遲

第二班 上田晴三書

丈て事の大成は
 粘り強く継続
 するところにある

第一班 花城清文

心正筆
 亦正筆

第五班 堤喜久男

同好会活動予定

★ハイキング同好会

十月の例会を次のとおり実施します。

奥まや周遊コース

日 時：十月十一日(土)
 午前八時三〇分

集合場所：阪急十三駅一番ホーム
 (神戸線中央付近)

阪急六甲駅↓バス↓丁字ヶ辻

↓六甲山牧場↓奥まや遊園地↓

まや天上寺↓上野道↓観音寺↓

バス↓阪急六甲駅(約七km)

持ち物：弁当、お茶等

その他：雨天の場合は十八日(土)

に順延します。

連絡先：ハイキング同好会代表

山路会員(844-1443)

★書道同好会

日 時：九月六日、二十日(月)

午前十時から

場 所：センター会議室

連絡先：書道同好会代表

古市会員(849-4127)

★囲碁・将棋同好会

日 時：毎週金曜日

午後一時から

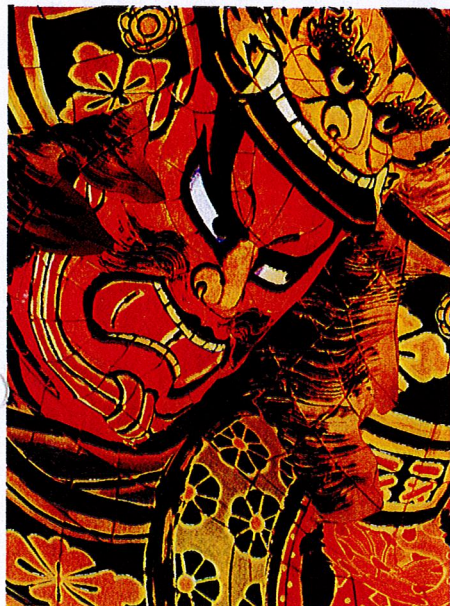
場 所：センター会議室

連絡先：囲碁同好会

国本会員(852-9993)

将棋同好会

金指会員(333-1079)



青森ねぶた祭り

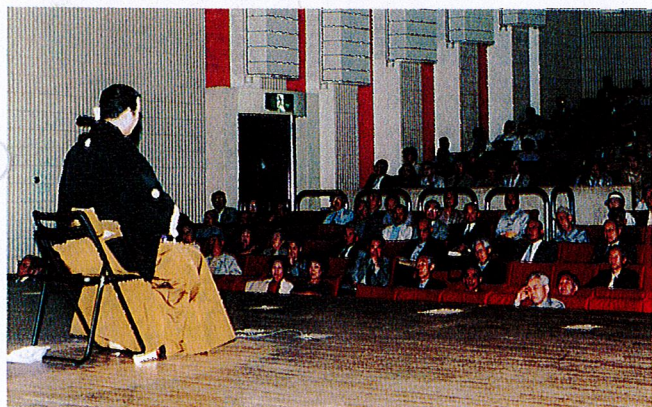
長谷川一義さんの故郷—青森の「ねぶた祭り」は毎年8月2日から7日に行われます。巨大な武者人形灯籠が勇壮に練り歩き、ハネトたちが一心不乱に踊り狂います。



通常総会第一部で満場を魅了

至芸の津軽三味線

長谷川 一義さん



今季は通常総会第一部で、津軽三味線の演奏会が催されました。長谷川一義さんは幼い頃からお母さんに三味線を教えられ、お父さんと一緒に門付けで芸を披露しながら、お金や食べ物などを頂いて、村々を回り苦労を仕つくしたお話から始まりました。

青森で生れて貧しいことに馴れ育った様子は、お話しの内容によく判りますが、話しぶりはまことに明るく、しかも楽しく、独特の青森弁で、聞く方にとっても心のなごむお話しでした。

津軽三味線の音色は絶えずその地方独特の哀愁を帯びた中にも、活気に満ちた撻さばきの音色で、終始聴きほれた次第でした。

あとがき

今夏は、颱風も来襲し、気候不順でした。

編集委員の『中春雄』さんが、去る七月八日、心不全で急逝されました。印刷経験の豊富な方でしたのでお任せし、自宅にて編集しておられました。もうひと息というところで急死、殉職の趣きにて、従いまして一時中断、気をとり直して、まとめましたものの、一ヶ月遅れになりました。お許し下さい。

幸い、中さん初め先輩の皆様が立派な編集スタイルを確立しておられ、A4版カラー化の予算も頂き、これからも、より一層『読みやすく、内容の充実したもの』になるよう努力してまいります。何と申しましても皆様のご投稿が『ふれあい』の本旨でございますので、よろしくお願ひします。

最後に、会員の皆様が、健康に細心の心配りをされ、お元気で、みよりの秋を迎えられますよう祈ります。

(編集委員一同)